手順書

Day1
OpenCodeハンズオンマニュアル

環境をつくり、浜松市データ連携基盤とオープンデータを知る

GitHub Codespaces ／ OpenCode ／ CKAN MCP ／ データ連携基盤（ステージング）



浜松市データ連携基盤 利活用促進イベント「餃子を焼くより簡単!?〜生成AI×浜松のデータで、アプリをつくる2Days〜」
Day1：2026年11月12日（木）13:30〜17:30 ／ Co-startup Space & Community FUSE

このパートのゴール

作業部屋をつくり、浜松のデータの「ありか」と「取り出し方」を知る

Day1の前半では、このあと全員がアプリづくりに使う作業部屋（GitHub Codespaces）を立ち上げます。立ち上がりを待つ間に、**浜松市データ連携基盤**と**オープンデータ**の基本を学び、最後に OpenCode（AIのコーディング相棒）に日本語で頼んで、実際にデータを探したり、取り出したりしてみます。

① 作業部屋をつくる

Codespacesを起動し、OpenCodeに話しかけられる状態にする。

② データを知る

データ連携基盤とオープンデータの違い、データの取り出し方を知る。

③ AIで触ってみる

オープンデータを検索し、データ連携基盤（ステージング）のデータを見てみる。

Day1全体の中での位置づけ

パート	内容
はじめに	今日のゴール、進め方、アイスブレイク
環境をつくる・データ連携基盤について（本書）	**Codespaces起動、OpenCodeの動作確認、データ連携基盤・オープンデータの基礎、データを探す・見る**
環境の補足	チャット型とCLI型、開発環境、AGENTS.md
仕様書をつくる → 開発する	spec.md づくり、避難所マップを4ステップで開発
交流タイム・まとめ	見せ合い、今日の型、Day2への橋渡し

この資料の位置づけ

本書は**準備編（GitHub Codespaces の起動）**から始めます。OpenCodeの認証、モデル、注意事項などの詳細は、別冊の**「生成AI開発ツール利用マニュアル」**を参照してください。「Codespacesってなに？」は、補足資料（1枚）にまとめています。

概要

所要時間	約60分（ビルド待ちの時間に講義を挟みます）
前提	GitHubアカウントがあること（事前にご案内済み） 申込時のメールアドレスでメールを受信できる、PCかスマートフォンがあること（認証で使います）
使うリポジトリ	`kzkski/cloudflare-dev-container`
このあとの章で扱うこと	AGENTS.md、仕様書（spec.md）、ローカルサーバー（ポート8000）、避難所マップづくり

当日の流れ（目安）

時間	Step	内容
0–5 分	0	Codespacesを起動する（ボタンを押して、ビルド開始）
5–15 分	1	【講義】データ連携基盤ってなに？（ビルドを待つ間に）
15–25 分	2	OpenCodeをさわってみる（認証・動作確認・README要約）
25–37 分	3	【講義】データ活用の基礎（オープンデータとは・浜松の活用事例・取り出し方）
37–45 分	4	オープンデータを探す（CKAN MCP）
45–55 分	5	データ連携基盤（ステージング）のデータを見てみる
55–60 分	—	本番環境の案内、次のパートへ

時間が足りないときは

Step 4・5 は、休憩時間や開発の合間に、プロンプト早見表から再開できます。このあとの「仕様書をつくる」は、Step 2 まで終わっていれば進められます。

進捗チェックリスト

- [ ] Step 0　Codespacesの起動
- [ ] Step 1　データ連携基盤を知る
- [ ] Step 2　OpenCodeの認証・動作確認
- [ ] Step 3　オープンデータの基礎
- [ ] Step 4　オープンデータを検索
- [ ] Step 5　ステージングのデータを見る

0

準備編｜GitHub Codespaces を起動する

ハンズオンを始める前に、GitHub Codespaces で
このリポジトリの開発環境（作業部屋）を立ち上げます。
ボタン操作だけで、opencode などが入った環境ができあがります。
（リポジトリ：kzkski/cloudflare-dev-container）

0　準備編｜GitHub Codespaces を起動する

GitHub上のボタン操作だけで、`opencode`／`Node.js`（`npx http-server`）／`git` などが揃った開発環境（Codespace）が立ち上がります。今日使うデータ（`data/` フォルダ）も、最初から入っています。

1　GitHub にログインして、リポジトリを開く

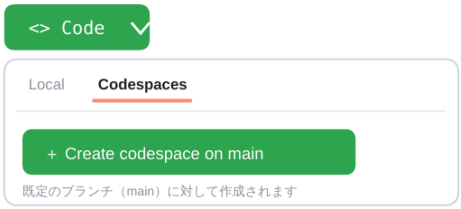
まず GitHub に**ログインした状態**で、ブラウザから次のリポジトリを開きます。

> **リポジトリ URL**
> `https://github.com/kzkski/cloudflare-dev-container`

※ ログインしていないと、次の Codespaces の作成メニューが表示されません。

2　Codespace を作成する

開いたページで `Code` → `Codespaces` → `Create codespace on main` を選択します。



3　ビルドとセットアップの完了を待つ

作業部屋の組み立て（ビルド）が進みます。「View creation log」で進み具合を確認できます。続いてセットアップが自動で実行され、OpenCodeなどがインストールされます。**初回は3〜5分ほどかかります。**この間に、次の Step 1（データ連携基盤ってなに？）の話を聞いてください。

4　新しいターミナルを開く

セットアップが終わったら、**新しいターミナルを開いてから** `opencode` を使い始めます（設定の反映に、新しいターミナルが必要です）。

ターミナル：文字で命令を出す画面。画面下のパネル右上の「＋」、または メニュー →「ターミナル」→「新しいターミナル」で開きます。

> ⚠ **「ターミナル」と「OpenCode のチャット欄」は別物です**
> コマンド（`opencode …` など）は、行頭に `$` が出ている**ターミナル**に打ちます。OpenCode を起動すると同じ場所がチャット欄に変わるので、コマンドを打つときは OpenCode を終了（`Ctrl` ＋ `C`）するか、もう1つ新しいターミナルを開いてください。

> ✓ **完了条件**
> - Codespaces の画面（左にファイル一覧、下にターミナル）が開いている
> - 新しいターミナルで `opencode --version` を打つと、番号が表示される

1

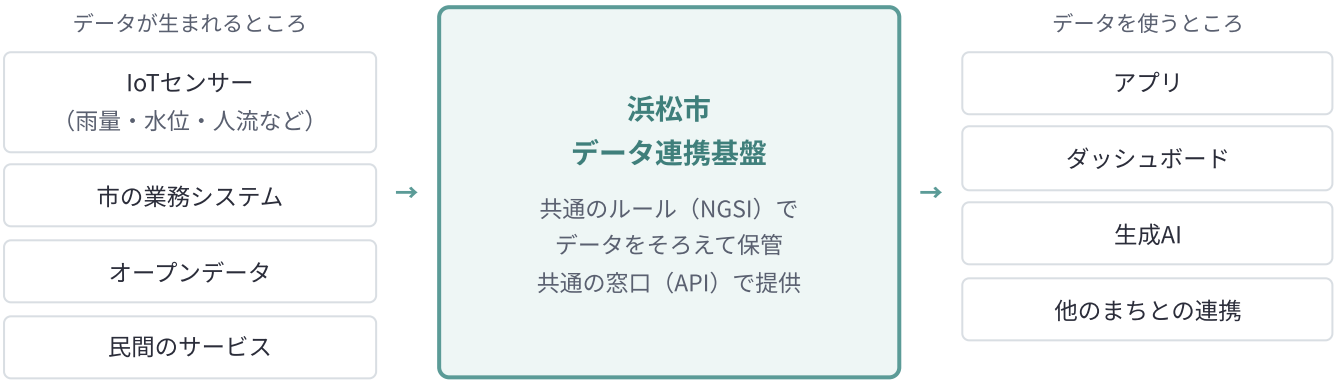
データ連携基盤ってなに？

作業部屋のビルドを待つ間に、
浜松市データ連携基盤の役割と、どんなデータがあるかを知ります。
（Step 1・講義）

1　データ連携基盤ってなに？（講義）

データ連携基盤＝まちのデータの「共通の受け渡し窓口」

まちには、センサー、市の業務システム、民間のサービスなど、さまざまなところでデータが生まれています。ところが、データの形や取り出し方がバラバラだと、アプリを作るたびに個別の対応が必要になります。**データ連携基盤**は、こうしたデータを**共通のルール（形式）**で集め、**共通の窓口（API）**から取り出せるようにする仕組みです。



ポイントは3つ

ポイント	意味
共通のルール	データの形を、国のスマートシティの考え方に沿った国際標準（FIWARE／NGSI）にそろえている。どのデータも同じ考え方で扱える
共通の窓口（API）	決まった書き方で「このデータをください」と頼むと、データが返ってくる。アプリやAIから直接使える
新しいデータ	センサーなどのデータは、数分〜数時間ごとに更新される。ファイルを配るオープンデータより、新しい状態が分かる

浜松市データ連携基盤にあるデータ（例）

データ	提供元	更新
雨量計・河川水位計データ	浜松市（土木防災情報システム）	10分ごと
水位計・冠水センサーデータ	民間事業者（複数社）	10分ごと／冠水検知時は10秒ごとなど
事故・浸水データ（FASTALERT）	株式会社JX通信社	配信から15分後
AI分析による交通事故危険予測箇所	浜松市	年度ごと
河川ごみ・笑顔数・ボランティアポイントなど	民間事業者・団体	日次〜月次

出典：浜松市データ連携基盤 データカタログポータルサイト（本番環境の掲載データ）。今日使うステージング環境にも、同じデータがコピーされています。

2

OpenCode をさわってみる

OpenCode の認証をして、話しかけられることを確認し、
作業部屋の中身をAIに説明してもらいます。
（Step 2）

2　OpenCode をさわってみる

2-1　認証する（最初の1回だけ）

ターミナル（OpenCode のチャット欄ではなく、行頭に `$` が出ている画面）で次のコマンドを実行します。ブラウザが開くので、**イベントに申し込んだメールアドレス**を入力し、メールに届いた認証コードを入力します（詳しくは「生成AI開発ツール利用マニュアル」の「認証・初回起動」）。

```
terminal
$ opencode auth login https://opencode-for-events.tokyo-odh-002.workers.dev
```

2-2　起動して、話しかける（2分）

```
terminal
$ opencode
```

▌OpenCode に貼るプロンプト

こんにちは。短い返事で自己紹介して。

✓完了条件

日本語で返事が返ってくる

2-3　作業部屋の中身を説明してもらう（5分）

目的：AIが、このフォルダ全体を読めることを体験する。

▌OpenCode に貼るプロンプト

このリポジトリの README.md を読んで要約して。
どんなツールが入っていて、何ができる環境か、箇条書きで短く教えて。

▌任意の深掘り

data フォルダには、どんなデータが入っている？ファイルごとに1行で説明して。

✓完了条件

OpenCode・データ・ローカルサーバーなどに触れた要約が出る

⚠ うまくいかないとき

コマンドが見つからない	新しいターミナルを開き直す
途中で認証が切れた（Unauthorized エラーなど）	OpenCode を終了（`Ctrl` + `C`）し、2-1 の認証コマンドをもう一度実行する
コマンドを打っても、AIが返事をしてしまう	OpenCode のチャット欄に打っている。終了するか、新しいターミナルで打ち直す
返事が英語になった	「日本語で」と送る

3

データ活用の基礎

オープンデータとは何か、浜松でどう使われているか、
データ連携基盤とどう違い、どう取り出すのかを知ります。
（Step 3・講義）

オープンデータってなに？

国や自治体などが持っているデータのうち、**誰でも、自由に使えるように公開されたデータ**のことです。国の「オープンデータ基本指針」では、次の3つを満たすものとしています。

① 自由に使える

営利・非営利を問わず、二次利用できるルール（利用規約・ライセンス）で公開されている

② 機械で読める

CSVなど、コンピュータで処理しやすい形で公開されている

③ 無償で使える

お金をかけずに使える

例：避難所の一覧、AED設置場所、公共施設、人口統計など。使うときは、各データの利用条件（出典の書き方など）を確認しましょう。

オープンデータとデータ連携基盤の違い

	オープンデータ	データ連携基盤
どんなデータ	まとめて公開されたファイル（避難所一覧など）	センサーやシステムから、次々に届くデータ（雨量など）
新しさ	公開した時点のもの（更新は月・年単位など）	数分〜数時間ごとに更新
取り出し方	サイトからダウンロード、またはAPI（CKAN）	API（NGSI）
利用	誰でも、登録なしで使える	会員登録をして使う（今日はステージング環境を用意）

3　データ活用の基礎（講義）

データの取り出し方は3通り

方法	やり方	今日
① サイトからダウンロード	オープンデータのサイトで探して、CSVをダウンロード	配布済み（`data/`）
② カタログのAPI（CKAN）	データの目録（カタログ）に、プログラムやAIから問い合わせる	Step 4（MCP）
③ データ連携基盤のAPI	基盤に「このデータをください」と頼む	Step 5

> 💡 **自分でデータを使うときに、最初に確かめる3つ**
> **文字コード**（UTF-8 か Shift-JIS か）、**列の並び**（ヘッダー行）、**件数**。ここを先に確かめておくと、AIへの頼み方も正確になります。

浜松市のオープンデータは、静岡県の「ふじのくにオープンデータカタログ」に掲載されています：
https://opendata.pref.shizuoka.jp/dataset/chiiki/shizuoka/hamamatu/

浜松のオープンデータは、もう、こんなふうに使われています

浜松市は、オープンデータを使って作られたアプリやサービスを「**オープンデータ活用事例**」として紹介しています（2026年10月27日更新）。作り手は企業だけでなく、**大学の研究室、地域のITコミュニティの有志、個人の市民**もたくさんいます。そして、その多くが「**オープンデータ × 地図**」――今日これから作る避難所マップと、同じ型です。

活用事例ページ

https://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/koho2/opendata/jirei.html

分野	事例（作り手）	どんなもの	使っているデータ
防災	津波避難収容指標 （静岡文化芸術大学 内尾研究室）	沿岸の街区ごとに、避難場所の面積と人口の比率を計算し、避難スペースの余裕を色分けした地図で表示	津波緊急避難場所
	浜名湖と津波 （個人）	過去1000年の浜名湖周辺の津波被害の歴史を、航空写真とともに紹介。今の避難場所も掲載	津波緊急避難場所
	AED NOW （個人）	近くのAEDの場所と、そこまでの距離・所要時間を地図で表示	AED設置箇所
子育て	こども園・保育園 状況確認Webアプリ （個人）	一時預かりの空き状況、募集人数と申込人数、「こども誰でも通園制度」の実施施設を地図で確認。施設の種類ごとに色分け	一時預かり空き状況、各種保育施設の一覧
	子育て情報サイト「ぴっぴ」 （はままつ子育てネットワークぴっぴ）	子育て支援ひろば、保育施設、健診、当番医などをまとめた情報サイト。Alexa（スマートスピーカー）版もある	子育て・保育・医療など20種類以上
暮らし	スマゴミ （株式会社SCOOOOP）	地域を選ぶと、ゴミ出しの予定を前日の夜と当日の朝に通知	ごみ・リサイクル
	ごみ当ちゃん （個人）	ごみ収集の予定や当番を管理できる、LINEのチャットボット	分別区分一覧（CSV）
	浜松市イベントカレンダー （個人）	市が公開しているイベント情報を、カレンダー形式で表示	イベント
まち・教育	小中学校 学区マップ （個人）	小・中学校の学区を、地図上でエリアに分けて表示	市立小・中学校、国土数値情報（学区）
	行政区再編 確認用マップ （個人）	行政区の再編後の新しい区割りと、今の区割りを地図で比べられる	区割り

💡 **事例を見るときのポイント**

①**どのデータ**を使っているか　②**誰の、どんな困りごと**を解決しているか　③**どう見せている**か（地図・通知・カレンダー・チャット）。この3つを意識すると、Day2のアイデア出しのヒントになります。

市もデータを「見える化」しています：HAMAMATSU DATA GARDEN

浜松市が、**オープンデータなどをもとに作ったダッシュボード**を集めて公開しているサイトです。「データを活用したまちづくりを、多くの人に身近に感じてもらう」ことを目的にしていて、ダッシュボードはTableau（データを見える化するツール）で作られています。データの更新やコンテンツの追加は随時行われます（2026年10月26日更新）。

HAMAMATSU DATA GARDEN

https://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/dsc/sakutei/digital_smartcity/hdg/index.html

コンテンツ	内容	もとになるデータ
防災オープンデータマップ ★	AEDの設置箇所や緊急避難場所を、地図上に表示	防災関係のオープンデータ
中心市街地 滞留人口ダッシュボード（2024年・2025年）★	中心市街地に、いつ・どれくらい人が滞在しているかを表示	人流データ
人口ダッシュボード	人口を、町字（ちょうあざ）単位まで細かく表示	住民基本台帳
気候（平年値）マップ	降水量・平均気温・日照時間の平年値を、1km四方のマス目で地図に表示	気候の平年値
市民意識調査ダッシュボード	2024年度・2025年度の市民意識調査の結果	市民意識調査
若年層アンケートダッシュボード（第1回・第2回）	2024年度・2025年度に行った若い世代へのアンケートの結果	若年層アンケート
【家計調査2023】浜松市民の好物はどれ!?	家計調査を題材にした、クイズ形式のコンテンツ	家計調査（2023年）
DATA GARDEN ロゴマーク	ロゴそのものを、データを使って描いている	—

★：今日のハンズオンと関係の深いもの

今日のハンズオンとのつながり

- **防災オープンデータマップ**は、今日の避難所マップと同じく「避難場所 × 地図」。市が作った完成形と見比べてみましょう。
- **滞留人口ダッシュボード**は人流データを使っています。センサーで集まる新しいデータは、Step 1の**データ連携基盤**の得意分野です。
- DATA GARDENは**Tableau**、今日は**生成AI（OpenCode）**で作ります。道具は違っても「データ → 集計 → 見える化」の流れは同じです。

4

オープンデータを探す

作業部屋に登録済みの「ckan-open-data」MCP を使い、
浜松市のオープンデータを、AIに検索してもらいます。
（Step 4）

4　オープンデータを探す（ckan-open-data MCP）

> 💡 **MCPってなに？**
> MCP（Model Context Protocol）は、AIに「外部の道具」を持たせる仕組みです。今日は、オープンデータのカタログ（CKAN）を検索する道具「ckan-open-data」を、あらかじめ持たせています。

4-1　浜松市のオープンデータを検索する（必須・8〜10分）

操作：① OpenCode の MCP 一覧で `ckan-open-data` が有効か確認する　② 次のプロンプトを貼る

▌OpenCode に貼るプロンプト（必須）

```
ckan-open-data の MCP ツール search_datasets を使って、
portal=shizuoka、keyword=浜松市 避難所、limit=5 でデータセットを検索し、
浜松市のデータだけについて、タイトルと概要を日本語で要約して。
ツールが使えなければ、その旨と設定の確認ポイントを教えて。
```

※ 浜松市のデータは静岡県のカタログに載っているため、portal は `shizuoka` とし、「浜松市」で絞り込みます。

4-2　余裕があれば（任意）

▌任意 1

```
portal=shizuoka、keyword=浜松市 で search_datasets を実行して、
見つかったデータセットを、公開している組織（部署）ごとに件数でまとめて。
```

▌任意 2

```
さっき見つかったデータセットのうち1件について、get_dataset で詳細を取り、
どんなリソース（CSV等）があるか、利用条件（ライセンス）とあわせて短く教えて。
```

▌任意 3（キーワードを変えてみる）

```
portal=shizuoka で、keyword=浜松市 AED（または 浜松市 公園、浜松市 人口 など）でも検索して、
浜松市のデータの件数とタイトルを教えて。
```

✓完了条件
MCP 経由の検索結果（または、はっきりしたエラーの理由）が返ってくる

うまくいかないとき	対処
MCP が一覧にない	OpenCode を終了（`Ctrl+C`）して、もう一度 `opencode` で起動する。それでもダメなら会場スタッフへ
HTTP 429 と出た	一度にたくさんの人が使ったときの制限です。少し待ってから再試行
0件だった	キーワードを短く・別の言葉にしてみる（例：「避難所」→「避難」）

5

データ連携基盤のデータを見てみる

今日のために用意した「ステージング環境」で、
浜松市データ連携基盤のデータをAIと一緒に見てみます。
接続の設定は不要。プロンプトで話しかけるだけです。
（Step 5）

5　データ連携基盤（ステージング）のデータを見てみる

ステージング環境とは

本番の浜松市データ連携基盤と**同じデータをコピーした、今回のイベント用の環境**です。データは読み取りのみで、認証なしで使えます。**使えるのは 2026年11月30日（月）まで**です。

💡 接続の準備はいりません

作業部屋には、データ連携基盤からデータを取り出すためのスキル「`moc-skill`」が、あらかじめ入っています。URLや認証の設定をしなくても、OpenCode にプロンプトで話しかけるだけで、AIがデータを取り出してくれます。

5-1　どんなデータがあるか聞いてみる（5分）

▌OpenCode に貼るプロンプト

浜松市データ連携基盤（ステージング環境）に、どんな種類のデータがあるか調べて。
データの種類（type）ごとに、件数と、何のデータかを1行で表にして。

5-2　1つのデータの中身を見てみる（5分）

▌OpenCode に貼るプロンプト

さっきの一覧から（例：雨量のデータ）を選んで、1件だけ取り出して。
どんな項目（属性）があり、それぞれ何を表しているか、日本語で説明して。
最後に、いつ時点のデータかも教えて。

✓完了条件

- データの種類の一覧が出る
- 1件のデータの項目を、日本語で説明してもらえる

⚠ うまくいかないとき

データを取りに行かず、一般論で答える	プロンプトの最初に「moc-skill を使って、」と付けて送り直す
一覧が長すぎて読みにくい	「上位10種類だけ」「件数の多い順に」など、条件を足して頼み直す

本番環境（浜松市データ連携基盤）を使いたい方へ

今日使ったのは、イベント用の**ステージング環境**です。イベントのあとも、最新のデータを使ってアプリやサービスを作りたい方は、浜松市データ連携基盤（本番環境）の**API利用申請（会員登録）**をご検討ください。

	ステージング環境（今日）	本番環境
目的	イベントでの練習用	実際のアプリ・サービスでの利用
データ	本番と同じデータのコピー。読み取りのみ	水位・冠水センサー、雨量・河川水位（10分ごと）、交通事故危険予測箇所など
使える期間	2026年11月30日（月）まで	申請が承認されたあと
始め方	認証不要。作業部屋の moc-skill で、話しかけるだけ	Webフォームから申請 → 届いたユーザー情報で認証トークンを取得
API	同じ（FIWARE NGSI v2）	FIWARE NGSI v2。`Fiware-Service`（サービスごとの名前）と `Authorization`（認証トークン）を指定

本番環境の使い始め方

1. **使いたいデータを探す**：データカタログポータルサイトで、どんなデータがあるかを確認する
   https://dataplatformportal.city.hamamatsu.shizuoka.jp/
2. **Webフォームから申請する**
   https://logoform.jp/form/Savd/560666
3. **ユーザー情報を受け取る**：承認されると、利用のためのユーザー情報が届きます
4. **認証トークンを取得して、APIを使う**：手順はチュートリアルを参照
   https://developer.makeour.city/hamamatsu/tutorials/

利用申請フォーム

データカタログ
ポータルサイト

※ データによっては、提供元ごとの条件があります（例：一部の民間データは、提供元の競合にあたる企業には提供されません）。詳しくはポータルサイトの各データの説明を確認してください。

このあとのパートへ

環境の補足
チャット型とCLI型、AGENTS.md
→
仕様書をつくる
spec.md
→
開発する
避難所マップを4ステップで

避難所マップでは、`data/` のオープンデータ（避難所）と雨量データを使います。「文字コード・列・件数」を確かめてから始めましょう。

準備完了です！アプリづくりへ進みましょう

振り返りチェック

- [ ] 自分の作業部屋（Codespace）が動いている
- [ ] OpenCode に日本語で話しかけられた
- [ ] データ連携基盤とオープンデータの違いが、ひと言で説明できる
- [ ] AI に、浜松市のオープンデータを検索してもらえた
- [ ] データ連携基盤（ステージング）のデータの中身を見られた

時間切れ・あとから再開

止まった場所	再開のしかた
Codespaces のビルド中	そのまま待つ。止まって見えるときは「View creation log」で進み具合を確認
Step 2 の認証	認証コマンドからやり直す。メールが届かないときは迷惑メールフォルダも確認
Step 4 まで	休憩時間に、プロンプト早見表の Step 4 から
Step 5 まで	開発の合間に、プロンプト早見表の Step 5 から
作業部屋を閉じてしまった	GitHub の Codespaces 一覧から、同じ Codespace を開き直す（新しく作らない）

⚠ 作業部屋（Codespace）について
Codespace を**削除**すると、中で作ったファイルも消えます。Day2 でも同じ作業部屋を使えると便利です。使わないときは「停止」にしておきましょう（無料で使える時間は、**月60時間**までです）。

付録｜このパートで出てくる言葉

言葉	意味
GitHub	プログラムのファイルを保管・共有するWebサービス
リポジトリ	GitHub上の、ファイル一式の置き場（設計図）
Codespace（Codespaces）	リポジトリをもとにクラウド上に組み立てた、動く作業部屋。ブラウザから使う
ビルド	作業部屋を組み立てる処理。初回は3〜5分ほど
ターミナル	文字で命令（コマンド）を出す画面
CLI	Command Line Interface。ターミナルで文字を打って操作する方式。OpenCodeはCLI型のAIツール
OpenCode	ターミナルで動く、AIのコーディング相棒。フォルダ全体を読み、ファイルの保存や実行もできる
README.md	リポジトリの説明書。.md は Markdown（見出しや箇条書きを記号で書く文章の形式）
データ連携基盤	まちのデータを共通のルールで集め、共通の窓口（API）で提供する仕組み
FIWARE／NGSI	データ連携基盤で使われている、国際標準の仕組みとデータの形式
API	決まった書き方で頼むと、データや機能を返してくれる「窓口」
エンティティ	データ連携基盤に入っている、1つ1つのデータのまとまり（例：ある観測所の雨量）
オープンデータ	誰でも、無償で、自由に二次利用できるよう、機械で読める形で公開されたデータ
CKAN	オープンデータの目録（カタログ）を作るためのソフト。多くの自治体のオープンデータサイトで使われている
MCP	Model Context Protocol。AIに外部の道具（検索など）を持たせる仕組み
ステージング環境／本番環境	ステージングは練習・確認用の環境、本番は実際のサービスで使う環境
CSV／文字コード	CSVは、カンマで区切った表のデータ。文字コード（UTF-8、Shift-JISなど）が合わないと文字化けする
ポート	作業部屋の中のサーバーにつながる「入口の番号」。今日のローカルサーバーは 8000

付録｜プロンプト早見表（全文・コピペ用）

各 Step で OpenCode に貼るプロンプトを、省略せずに載せています。そのままコピーして使えます。

Step 2｜認証・起動（ターミナル）

```
opencode auth login https://opencode-for-events.tokyo-odh-002.workers.dev
opencode
```

Step 2｜動作確認

こんにちは。短い返事で自己紹介して。

Step 2｜作業部屋の中身（README 要約）

このリポジトリの README.md を読んで要約して。
どんなツールが入っていて、何ができる環境か、箇条書きで短く教えて。

Step 2｜任意の深掘り

data フォルダには、どんなデータが入っている？ファイルごとに1行で説明して。

Step 4｜オープンデータ検索（必須）

ckan-open-data の MCP ツール search_datasets を使って、
portal=shizuoka、keyword=浜松市 避難所、limit=5 でデータセットを検索し、
浜松市のデータだけについて、タイトルと概要を日本語で要約して。
ツールが使えなければ、その旨と設定の確認ポイントを教えて。

Step 4｜任意 1・2・3

portal=shizuoka、keyword=浜松市 で search_datasets を実行して、
見つかったデータセットを、公開している組織（部署）ごとに件数でまとめて。

さっき見つかったデータセットのうち1件について、get_dataset で詳細を取り、
どんなリソース（CSV等）があるか、利用条件（ライセンス）とあわせて短く教えて。

portal=shizuoka で、keyword=浜松市 AED（または 浜松市 公園、浜松市 人口 など）でも検索して、
浜松市のデータの件数とタイトルを教えて。

Step 5｜データの種類を調べる

浜松市データ連携基盤（ステージング環境）に、どんな種類のデータがあるか調べて。
データの種類（type）ごとに、件数と、何のデータかを1行で表にして。

Step 5｜1件の中身を見る

さっきの一覧から（例：雨量のデータ）を選んで、1件だけ取り出して。
どんな項目（属性）があり、それぞれ何を表しているか、日本語で説明して。
最後に、いつ時点のデータかも教えて。